

ひとを育てる活動

今年の給食支援

－ 1食8円、週3回、対象は4小学校 355人－

小さな体に不釣り合いな大皿に山盛りの白いご飯、これに鶏肉の野菜入りスープがかかった給食は、クリスマスや私たちのような訪問者がある時の特別メニュー。通常は野菜入り雑炊ですが、家では、芋やバナナだけで1週間過ごすこともある子どもたちにとって、お米が食べられる給食は、学校に行く楽しみの一つになっています。

HANDSの給食支援は、2005年にビラーン民族初のCMIPディレクター職についたファーディー神父の要請によって始まりました。貧しかった自らの体験から、子どもの欠席を減らし、学力向上を図るには、給食の実施が有効と考えたようです。

教育全体支援会費のほか、市民のご寄付を合わせた今年の予算30万円は、以下のような食材購入費に充当されて、週3回、10ヶ月、合計355人分の給食を賄います。(野菜と薪は子どもたちが持参) <355名の給食材料予算。金額は月額> ¥2.4/ペソ

米	5袋(約250kg)	8,750ペソ
魚の干物	16kg	1,920ペソ
塩	4kg	40ペソ
イワシの缶詰	10ダース	1,080ペソ
その他調味料		1,200ペソ
	合計	12,990ペソ

給食対象校：アトモロック(136) ラムアフス(76)
(合計355人) トロクバト(49) 新設のバンリ(91)

その他のCMIP校の現況

- * ナブル・カマガヤ校は児童数が235名に増え、教師も1名増員、5名で担当。給食はHANDS予算では足りないので、CMIPとして別途資金源を探しています。
- * キアミ、ルタイ、ダタルサファンの3分校は公立に移る子どもが増えて3月末で閉校。ダタルサファンのロバート先生は新設のバンリ小に移りました。
(写真:住民が用意した仮校舎で学ぶバンリの子どもたち)



卒業生近況

－ LET合格者で後輩の支援を－

昨年9月の教員国家試験(LET)合格者2名の近況が届きました。アグネスは先輩フランシスと同じく、実家に近いルネン公立小に採用され、マリナは知人を頼ってセブ島滞在中のことでした。まだ数は少ないけれど、LET合格者が公立の教師として、安定した収入を得るとともに、自分の村や近隣のビラーン、ティボリの子どもの教育に当たる卒業生が着実に増えています。次のステップは後輩の奨学金やLET受験支援の基金の設立です。CMIP事務局もHANDS提案に賛同して、コ罗纳ダル市郊外の公立小勤務のメリアンにすでに音頭取りを依頼してくれました。



ノビシエート寮の後輩たち(5月でディレクター退任のエドイン神父を中心に、左から医師志望のジェニー、3年後にLET受験のジンキーとマリグレース)

今年の新奨学生

CMIPでは、小学生11、ハイスクール9、カレッジ2、計22名の新奨学生プロフィールを準備中です。子どもが卒業した方には追ってご連絡いたします。新規支援会員も募集しています。



奨学生候補の一人
ナブル小のケンバー

ブラクール・ハイスクールの暫定的閉鎖決定

－小学校はブラクール支援会費で支えます－

前号で閉鎖を検討とお知らせしたブラクール・ハイスクールは、この6月の新学期も登録数が増えず、政府補助金削減が明らかになったため、暫定的閉鎖を決めました。教科書、職業教育、学校農園支援等で、住民組織が運営するこのブラクールの中等教育施設を支えてきたHANDSとしても残念ですが、ゴム苗木事業等の成果が出る3年後に、父母の収入向上で授業料納入率が改善されれば、小規模校として再開できると期待しています。

ブラクール小学校の方は、今年も13名のブラクール支援会員によって、マノボ、ティボリ民族の初等教育(児童数90、教師4名)を支えます。